

命はみんな輝いてるから

半身まひのママ 出産子育ての記



又野亜希子

車イス

ママの足は

女性には埼玉県加須市の主婦 又野亜希子さん(33)。幼稚園に勤務していたが、02年の結婚を機に短大へ進み、保育士の資格を取り、群馬県の邑楽町立保育園に勤めた。

「死も覚悟」の末にみた希望

何もできず、周囲に迷惑をかけるばかり。死をも考えたが、家族や友達が支えてくれた。そして、リスクを越えての妊娠、出産、子育て。交通事故で頸椎と頸髄を損傷し、車いす生活を送る女性が手記を出版した。「どの命も輝いていると伝えたい」。そんな思いが込められている。(鬼久保幹男)



交通事故で車いす生活となり、子育てなどの体験を本にまとめて出版した又野亜希子さん(埼玉県加須市)出版された「ママの足は車イス」

転じたという。病院で2度の手術を受けた。意識がはっきり戻ったの

は8月4日。自分の身に何が起きたのか、分からなかった。「足は動きません。生活は車いすを使うことになりました」と、医師に告げられたという。「赤ちゃんを産むことはできますか?」

又野さんは医師に尋ねた。結婚して2年。子どもを望んでいた。「できます」。医師の言葉にほっとした。

翌月、リハビリが始まった。胸から下がまひし、両手の

を少し動かせる程度。周りに迷惑をかけ、何もできない自分に落ち込んで、死も考えたという。支えになったのは、すべてを受け入れてくれた夫や両親ら家族とリハビリ仲間だった。

05年秋、妊娠していることが分かった。「嬉しい。びっくり。不安。信じられない...」。日記に記した。

胸から下が動かない又野さんの妊娠・出産には、大きな危険が伴った。医師には最悪の場合、死に至る例もあると言われた。それでも、「怖

いけど、産みたい」と思った。最も心配なのは、頭痛や血圧上昇などの症状がある自律神経過反射という合併症だった。のぼせや発汗などがみられたら、すぐ医師に連絡するように言われた。

分娩時、急激な血圧上昇で脳の血管が切れて命にかかわる危険があり、予定日より1カ月早く帝王切開で出産することに。

06年5月、長女杏子ちゃんが無事生まれた。生後4カ月ほどになった時、杏子ちゃんと初めて庭を散歩した。秋の空が広がっていた。抱っこひもを使って安全を確保し、ひざに乗せた。「母親らしいことが少しできた」。うれしかった。